

金融資本の検討（上）

小 牧 聖 徳

- 一 序
- 二 従来の見解
- 三 方法問題
- 四 一般的性格（以下次号）
- 五 運動形式

—

今日、世界の資本主義諸国において、支配的位置を占めているのは金融資本にほかならない。この金融資本の在り方は、各国のそれぞれの歴史的、社会的事情の相違にもとづいて、それぞれの国の特殊の型をもっている。たとえばアメリカ型金融資本、ドイツ型金融資本等々。これら各国の金融資本の在り方の検討は、もとより極めて重要であり、それらの検討によって、またその成果の比較検討を通じて、各国のそれぞれの金融資本の在り方が鮮明となり、それぞれの特徴が一層明確化されることとなる。

しかし、それと同時に、それぞれの金融資本の特殊的、具体的在り方とともに、それが金融資本として把握され得る限りにおいては、金融資本に共通する一般的性格があるものといわなければならない。金融資本にかんする一般の原理の存在を前提とすることなしに、金融資本の各国における特殊的、具体的在り方を、金融資本として明らかにすることは出来ない筈である。すでに明らかにされているドイツ、アメリカ、イギリス、日本などの金融資本にかんする分析は、少なくとも一定の金融資本観を基底として、その具体的発現として、各国の実状が究明されたものといわなければならない。

一般の原理と歴史的、具体的事実、この両者は相互に他方を予想し、両者は相互に不可分の関連のもとにあり、原理は歴史的、具体的事実にもとづいて抽出されて現実的基盤をもつこととなり、また歴史的、具体的事実や混沌たる現実の諸現象の解明は、原理をみちびきの糸としてなすとげられることとなる。両者はともに重要不可欠な学問領域として相互に補完しあい、交互作用の過程のうちに、それぞれの分野を深化し、充実に行くものといえる。一般の原理と歴史的、具体的事実あるいは理論と歴史とは、正しくかかるものとして学問の中に生きつつけて来た。金融資本にかんする一般の原理も、まさにかかるものとして、各国の特殊的、具体的検討によって素材を提供され、またみずからを検証される反面、一般の原理は逆に各国における具体的分析にとつての有力な指針をあたえることとなる。

しからば金融資本の一般の原理とは如何なるものといえるのであるか。これについてはすでにヒルファーディングをはじめとして、レーニン、スイージ等々によってその見解が明らかにされており、また彼らの見解をめぐって、金融資本概念の明確化をめざす論議が展開されて来たが、歴史的、社会的制約のもとでなされざるを得な

い研究の必然的結果として、金融資本の概念も歴史的、社会的制約をまぬがれることは出来ず、ヒルファーディングの金融資本の規定はドイツ的な、あまりにもドイツ的なものとして、その一般性を主張することは困難となり、またスイージの規定もまたアメリカ的な見解として、ともに社会的、歴史的制約によって限界づけられているといえる。

二

かつてヒルファーディングによってなされたドイツ金融資本の解明は、銀行優位の金融資本を示す典型と目されているが、特定国の金融資本をもって、金融資本の一般的原理にまで拡大しようとすることは無理である。ただしドイツ金融資本、したがってその基盤としてのドイツ資本主義は、当時の世界資本主義の先端に位置していたとしても、今日の段階においては世界資本主義の先端は、アメリカに移っている。したがって金融資本の一般的原理は、今日の段階ではアメリカ金融資本をその完成形態とし、ドイツ金融資本をも包含した世界的視野のうち、金融資本の一般的原理と動向が解明されなければならない。ヒルファーディングの金融資本にかんする見解は、今日の段階からみれば世界資本主義のその後の発展によって、歴史的制約と社会的制約をうけた特殊理論として位置づけられる。しかしながら、それは今日の段階からみることによって、そういえるのであって、少なくともヒルファーディングの時代においては、当時の資本主義的最先進国におけるあたらしい資本として、金融資本としての一般性を主張出来たかも知れない。しかしその後の現実の発展が、彼の理論を特殊理論たらしめたのであって、今日においては彼の特殊理論を包含した一般理論の確立をみるべき基盤は成熟しているといえる。

世界資本主義のその後の発展によってヒルファァーディングの理論は特殊理論になり下ったが、このことはヒルファァーディングもやはり時代の子であり、時代的限界を乗り越えることは出来なかったことを一面では物語っているものといえる。

レーニン、ヒルファァーディングの見解を高く評価しつつ、それに批判を加えることによって、ヒルファァーディングの見解のもつドイツ的特殊性を世界的、一般的なものにまで高める道を切り開いた。レーニンの「帝国主義論」にみられる金融資本にかんする簡潔な定義（帝国主義論、堀江訳、一二七頁）は、そのことを明白に物語っているが、このことが可能であったのは現実の発展もさることながら、レーニンの洞察力に帰因するところが極めて大きいといわなければならない。すなわち独占の契機を強調するとともに、銀行と産業の癒着を論じ、その国際的領域への進出を示している。その視野は世界的であり、ヒルファァーディングの見解に影響されているが、ヒルファァーディングの見解を超えていることは周知のごとくである。

独占の契機の指摘によって、資本主義の独占的段階と競争的段階の区別がなされ得るとともに、競争的段階での支配的資本であった産業資本に対し、独占的段階で支配的資本となる金融資本が、産業資本とは異なった性格のものとして明らかにされることとなったのである。独占段階での支配的資本は独占資本であり、それは金融資本であるが、独占資本と金融資本とは同一物であるにもかかわらず、異なった表現をもつ点に、独占資本と金融資本との相互関連とそれぞれの意味を明確化する必要をみることとなった。もとより独占資本も金融資本も本質的には同一であるが、独占資本は業界での支配度という社会的機能の観点からとりあげた表現であり、かかる資本を資金的側面から、成立構造に着目して金融資本という表現が与えられたものといえる。しかし金融資本とい

う表現は、すでに学界での一般的表現として用いられているけれども、「通常考えられる「金融」という意味に照らして考察すれば、金融資本という語で表現しようとする内容と、金融資本という表現との間には若干の乖離が感ぜられ、それが金融資本概念の混乱を呼び起しているといえる。なかならず金融資本が金融する資本として学界の一部においてさえ、常識的に理解されさえするようになった根源は、ヒルファードイングによってなされた「金融資本」という表現のうちにあるといわなければならない。

「金融資本」という表現に内含する不明確さを、より明確にしようとする試みとして、スウィージは「資本主義発展の理論」において、このような語にかえて「独占資本」という表現をとることを主張した (P. M. Sweezy: *The Theory of Capitalist Development*, p. 267-269. 中村訳三六三〜七頁) のも無理からぬことであった。しかしスウィージは独占資本を金融資本と同一物としてとらえることはしないで、競争段階から独占段階への過渡期における資本として、いわば独占資本に至る前の過渡的段階での資本として金融資本を位置づけ、金融資本から独占資本へとという傾向を念頭に置いていた。その結果として、アメリカでの自己金融の進展を目のあたりにみたスウィージは、独占資本は是認しながら、アメリカにおける金融資本と独占資本とは、異なったものとして理解して、金融資本の存在を過去のものとして位置づけようとしたのである。このように金融資本と独占資本という表現のちがいが、内容までも異なるものとして理解させ、混乱をみちびくこととなった。その意味でも内容に則した表現が検討される必然性があるといわなければならない。^{*}

* 金融資本の内容に則した表現として「巨大結合資本」を以てすることを、わたしはかつて主張したが今でもこの考は変わっていない (拙稿、金融資本にかんする一考察、立命館経済学十二卷・四号)。

三

金融資本の一般原理の究明は極めて困難なことからいわなければならないが、一般的な原理として、その一般的妥当性を主張しうる為には、その原理の対象を特殊的、個別的なもののみに求めてはならない。対象の特殊的、個別的な性格にもとづくいわば特殊理論が一般理論として成立するためには、特殊理論の対象となつたものが、まず一般化され、一般化された対象を基礎とし、前提とするところに一般理論が成立するといわなければならない。

このことは金融資本についていうならば、金融資本をドイツという特定国家において把握し、それを金融資本の一般原理として主張する場合には、その前にドイツ資本主義がドイツを含めた世界資本主義の典型として目されなければならない。またアメリカの金融資本が世界資本主義における金融資本としてその一般性を主張するためには、アメリカ資本主義の世界的性格が明らかにされるのでなければ、その中における金融資本の一般的性格を主張することは出来ない。したがって一般原理は対象の一般的性格にもとづいて、特殊性ではなしに一般的性格を分析の出発点としなければならない。したがって金融資本の一般的性格を究明するためには、世界資本主義を出発点とすることを必要とするのであり、特定国の、たとえば日本の、あるいはドイツの資本主義を出発点とすることによっては、一般原理を把握することにはならない。かりに、かかる特定国から出発するとしても、一般原理の把握を目標とする場合には、まずかかる特定国を世界資本主義の一構成部分として、世界資本主義の中に位置づけることが必要であり、これなしに一般原理の把握は不可能であるといわなければならない。

い。したがって金融資本の一般的原理は、世界資本主義を基盤として究明されることによって、その一般的妥当性を主張出来ることとなるといわなければならない。

金融資本の一般的原理は世界資本主義を基盤として握持しなければならないが、基盤となる世界資本主義は、各国資本主義の統一的全体として存在しているのであり、したがってその中には資本主義的に発展した特定国と、未だ発展途上にある資本主義国が混在している。いわば各国は資本主義的發展の段階的相違によって資本主義的發展の不均等状態のなかにおかれている。すなわち最先進資本主義国と最後進状態にある資本主義国とを両極として、資本主義的階層化が存在する。その中で支配的・最先進的資本主義国は、その支配力を保持しつつ、より一層の資本主義的發展をめざしており、より進んだ資本主義的發展をめざして、最先進国に追付き、追越そうと努力しつつある。歴史過程のなかで、かかる方向への努力がつけられ、そのなかで世界資本主義は躍動している。このような過程のなかで、それぞれの資本主義国については、あるものは飛躍的躍進をにつけ、あるものは漸進的躍進をにつけ、あるものは停滞的状态にあり、それぞれの過程を進みつつあるが、世界資本主義を全体としてみれば、おくれた国は、その未来像を進んだ国の中に望見し、進んだ国は自己の萌芽状態をおくれた国の中に、目のあたり見、現時点において資本主義的發展の歴史的過程が空間的広がりにおいて再現されている。

世界資本主義の歴史的発展過程が、空間的にも再現されているとして世界資本主義を把握し、かかる世界資本主義を基盤として金融資本の一般的原理を究明することによって、金融資本の一般的原理が成り立ち得る。したがって金融資本の一般的原理は、世界資本主義を前提として把握しなければならないが、その場合まず、世界資

本主義を構成する各国資本主義の階層状態にあるものうちで、支配的位置にある国（アメリカ）に注目しなければならぬ。それは支配的先進国（アメリカ）において完成した金融資本の形態を把握することが出来るからである。そしてアメリカ金融資本を歴史的に遡求することによって、金融資本の成立過程を追求することが出来るが、それはヒルファーディングによって明らかにされたドイツ金融資本の成立と相通するものがある。けだしアメリカ、ドイツ共に資本主義的にはイギリスより後れて出発したものであるから、イギリスとの対比では、アメリカ、ドイツはいずれも後進性をもっていたという点では同一性を内含していたからである。そしてアメリカより出発した分析は、ドイツを媒介とし、さらに当時の資本主義の先進国であったイギリス資本主義まで、さかのぼらなければならない。イギリス資本主義は資本主義の先進国として、アメリカ、ドイツに先んじて資本主義を確立し、世界資本主義を出発させたのであるが、「資本論」はかかるイギリスをとらえて、その産業資本としての確立と発展を究明したが、同時に世界資本主義の最先進国としての位置にあったイギリス資本主義の究明は、当時の世界資本主義の究明を意味していた。このことは現在における資本主義の最先進国としてアメリカ資本主義を究明することは、現在の世界資本主義を究明することになると軌を一にする。資本主義はイギリスで始まったが故に、資本主義の解明はまずイギリスを舞台になさなければならないが、独占段階の金融資本の解明は引つづきイギリスをたどる方向と、イギリスを超越そうとするドイツをたどる方向へと分れるが、世界資本主義としては、資本主義はイギリスよりアメリカ、ドイツにうつがれ、アメリカにおいて世界資本主義は発展の極致に達し、したがって金融資本もアメリカで、その最高の発展段階にあるといえる。そこでドイツの中には、イギリスとアメリカがその両側にあるというのが資本主義の世界史的動向であり、ドイツ金融資本、イ

ギリス金融資本、アメリカ金融資本と、それぞれの国の金融資本の特殊性はあるとしても、世界資本主義の中の金融資本の一般的動向の解明においては、各国のいづれかにのみ局限されることなく、イギリス→ドイツ→アメリカの系譜の中に世界資本主義の流れ、したがって金融資本の流れ、を基本的なものとして把握するのが、一般の原理にとって正しい方向であるといわなければならない。そして歴史的過程でとらえられる金融資本の動向は、歴史的理論としてのみならず、歴史的過程の空間的広がりとしての現在においても、現代資本主義を解明し、さらに必然的方向を洞察する鍵を与えるものといわなければならない。けだし歴史的過程の解明は直接的には過去の時代の解明であって、それが現段階への可能性を暗示するとはいへ、それは暗示ではあっても現実そのものではないが、歴史的な一定段階は、それが現段階で空間的に再現するとして把握され、現段階の将来への予見に際し、歴史的進展過程は未来においても空間的に再現されるだろうと予測するための指針を、歴史的過程の究明が与えることとなるからであり、ここに歴史的過程究明の現実的意義がある。

すでにのべたように資本主義を世界資本主義として把握し、その中で金融資本を把握する場合に、金融資本の世界的、一般的原理が明らかにされ得るといわなければならないが、しかし任意の国の金融資本をとりあげることによって、金融資本の一般的原理が究明されることにはならない。任意の国の金融資本をその成立の始源まで遡求することによって、その国の金融資本の始源を明らかにすることが同時に、世界資本主義における金融資本の始源につらなるか否かは、世界資本主義におけるその国の資本主義的位置にかかっている。その国が世界資本主義において現在も、また過去においても、最先進国であって、世界資本主義で支配的立場を資本主義として成立して以来、持続しつづけているならば、いづれの段階においても資本主義的發展の典型を示すものとして、資

本主義的發展の一般理論のみならず、金融資本についても世界的・一般的理論として成立しうるであろう。あたかも「資本論」におけるイギリス資本主義は、当時の世界資本主義の最先端を行くものであったが故に、「資本論」の理論が資本主義社会分析の一般的原理たり得た如くに、である。しかしそれにつづく資本主義の發展は、イギリスにおいてもみられたけれども、世界的には、ドイツ資本主義によって追付かれ、資本主義としてはドイツとイギリスは併存し、そのなかでドイツを舞台に、ヒルファーディングによって金融資本の理論が展開された。ドイツにおける産業資本の發展が、銀行資本の強力な援助のもとになされたところに、銀行資本と産業資本との結合を強調する金融資本の理論が出現したが、ドイツでみられた状態は、イギリスの状態をそのままの形でドイツに再現したのでは勿論なく、資本主義的新興国としてドイツが、世界資本主義国の最先端を行くイギリスに追付こうとしてたどった特殊な過程にほかならなかった。したがってそれはドイツ資本主義の發展過程を物語るが、世界資本主義の典型は、当初は未だイギリスにあったといわなければならない。イギリス資本主義、ドイツ資本主義は世界資本主義の構成部分として競争過程のなかで、新興国ドイツは、その後進国としてのエネルギーを爆発させて、イギリス資本主義に異常なはやさで追付き、さらにそれを凌駕するに至って、世界資本主義の焦点はその後、イギリスよりドイツに移行することとなった。そこで世界資本主義は、ドイツ資本主義において新たな發展段階に入ることとなったが、ドイツ資本主義は当時すでに独占段階に入っており、独占の形成過程に銀行資本が積極的な役割を果し、独占段階の所産として金融資本が出現し、資本主義の解明にとって金融資本の解明が不可欠となった。そしてドイツに發展した独占資本主義が、世界資本主義の典型と目される時代へ突入し、ドイツ金融資本が一時は、金融資本の典型と目されることとなったのである。

金融資本はドイツにおいて成立、発展したが、アメリカもドイツと同じく資本主義的新興国として、イギリスにおかれて資本主義体制に向い、イギリスに追付き、追越そうとしたことについては、ドイツと同様である。ドイツもアメリカも資本主義を急速に発展させ、独占資本主義への発展は、ドイツにもいち早くみられたが、アメリカも独占資本主義体制を、より一層飛躍的に進展させ、独占体制下ではドイツを超越して、今や世界資本主義体制下での最先進国として、したがって独占資本主義体制のもっとも進展した国として、ドイツ、イギリス等の資本主義国の最先端を行く国家に成長した。したがってアメリカ資本主義下での金融資本は、今日の金融資本の最も進んだ姿を示すものとなり、ドイツにみられたようなヒルファーディングが明らかにした金融資本は、今日の金融資本に到達する過程的段階の金融資本を示すものであり、またイギリスは世界資本主義のなかで最も早い時期に資本主義を成立、発展させ、ドイツ、アメリカ等の資本主義的新興国の急速な発展に影響されて、ドイツ、アメリカとともに十九世紀末から二十世紀にかけて、独占体制に入ることとなった資本主義的典型国としての位置にあるが、イギリス資本主義における金融資本は、世界資本主義体制のなかで典型的な資本主義的發展のコースをたどって成立した金融資本を、より縮小した形で示すものといえる。いわばイギリス金融資本は、現段階では世界資本主義のもとでの金融資本の縮小版とでもいうべき位置をしめ、その拡大されたものはアメリカ金融資本であるといえる。もとよりイギリス金融資本が今日に到達するまでに経過した過程と、ドイツ、アメリカ等の資本主義的新興国において金融資本が成立し今日の段階に発展したそれぞれの過程は、同一ではなく、とりわけ銀行資本が独占形成に参加した度合は、資本主義的新興国ほど強いといえる。しかし一たび国内的に独占が形成された後の、金融資本の推移は、イギリス、アメリカ、ドイツの金融資本のいずれにとっても、等しく海外へ進

出する方向をたどることは、必然的共通性であり、海外への資本の進出段階で、金融資本は世界的一般性を獲得することとなる。その発展の極致において、海外進出にむかい、その場合、銀行資本が重要な役割を演ずる点において、金融資本の世界的、一般的性格があり、この金融資本の世界的一般性は、その共通性につらなり、世界資本主義を基盤として成立する金融資本の一般的原理にほかならない。

そこで世界資本主義のなかで、イギリスは先進資本主義国の独占化への進展を典型的に示す国として、そこで成立した金融資本は、かかるものの典型をなすものとして、また、ドイツ、アメリカは新興資本主義国の独占化への進展を典型的に示す国として、そこで成立した金融資本はかかるものの典型をなすものとして把握されるが、その到達点においては、成立過程でのそれぞれの相違にもかかわらず、世界的一般的性格を帯びるに至る。そしてかかる世界化、一般化を出発点として、それに至る過程を世界資本主義の進展過程を媒介として追求することによって、金融資本にかんする一般原理が、世界的視野のもとで、歴史的、論理的に把握されるものといわなければならない。したがって世界資本主義を基盤として把握される金融資本の一般原理は、各国資本主義の金融資本をその内に内含しているが、各国資本主義のもとでの特殊な金融資本そのものではなく、そのなかに一般的、共通的に貫徹する世界的、一般的傾向の原理にほかならない。そしてこのような一般的傾向の原理が、現実の各資本主義諸国に適用されることによって、それぞれの国の金融資本の現在における発展の度合、および将来への必然的動向が予測可能となるものといえる。

金融資本を世界資本主義の発展過程の中で、現代での最先進国であるアメリカを出発点として、世界的視野で把握することによって、その一般の原理が究明されることとなるが、アメリカ資本主義の歴史的過渡が世界資本

主義の下の分析を意味し、より未熟な段階でのアメリカ資本主義が明らかになることは、同時により未熟な世界資本主義の状況を示すこととなる。より未熟な世界資本主義の典型は、ヒルファーディングの明らかにしたドイツに見出されるわけであり、ドイツ資本主義において過程的段階における金融資本の典型がみられるが、それは世界資本主義における過程的段階での金融資本の具体例を意味している。さらにアメリカ資本主義の歴史的過程がつけられることによって、世界資本主義の下の分析は進展するが、ドイツにおいて具体例を見出した世界資本主義の過程的段階は、さらに一步分析がすすめられて競争的資本主義の段階に進展する。競争段階での世界資本主義の典型はマルクスの解明したイギリスに見出されるわけであり、イギリス資本主義において産業資本段階の一般的原理が、典型的に、歴史的事実とともに見出され、その資本主義の一般的原理は世界資本主義の一般的原理として、イギリスは当然のこととして、ドイツ、アメリカにも貫徹している。もとより、この原理の貫徹は先進国では全面的に、後進国では局部的、部分的ではあるが、おのずからその貫徹領域を拡大する必然的傾向をもつ。そこで、世界資本主義の中心点は、この段階ではイギリス資本主義にあり、それによって影響されるものとしてドイツ、アメリカ資本主義が併存する。

アメリカ資本主義を出発点とする世界資本主義の下の分析は、アメリカ資本主義の歴史的過程にともなつて世界資本主義のなかでのより未熟な資本主義の段階としてドイツ資本主義に、よりさかのぼればイギリス資本主義にその典型をみることとなるが、このことは出発点をなすアメリカ資本主義が現在での世界資本主義の典型と目される位置にあることに照応している。すなわち世界資本主義は、まずイギリス資本主義によってその競争段階の典型をもち、独占初期の段階の典型はドイツ資本主義にもち、現代資本主義の典型はアメリカ資本主義にも

つ。したがって世界資本主義の進展は、イギリス資本主義↓ドイツ資本主義↓アメリカ資本主義と、それぞれの段階での典型をもち、世界史的に全体として発展をとげて来たといえる。そしてこの資本主義の基本的動向の中に貫徹する原理こそが世界資本主義の基本原理にはかならない。そして各国それぞれの資本主義は、それぞれの独自の発展をたどるとともに、その中にはイギリス、ドイツ、アメリカにおいて典型化された資本主義の各発展段階での典型が、基本的動向として再現し、貫徹することとなる。世界資本主義のもとで、それを構成する各国資本主義の相互関連と統一において把握された金融資本の一般的動向は、歴史的動向としてのみならず、空間的にも再現されて一般的原理として成立する。

歴史的動向の空間的再現としては、今日、資本主義各国において発展段階の相違により、先進国と後進国との階層状態がみられるが、それと同様に金融資本の中にも、先進状態の金融資本と発展途上にある金融資本という形態で、国家と国家の発展段階の相違と同様、金融資本の階層化がある。たとえば国内市場を独占するのみならず、海外進出を実現している金融資本は、最先進状態にある資本主義国に照応し、海外進出を企図しつつ国内市場を独占している金融資本は、最先進につぐ先進資本主義国に照応し、企業相互の競争のなかで信用を利用して、金融資本形成の途上にある過渡的資本は後進資本主義国に照応する。

後進国より先進国へ、国内的金融資本より国際的金融資本へ、という国家や金融資本の歴史的発展動向は、階層化状態において世界的に目のあたりに再現されることとなるが、金融資本の一般的原理を明らかにすることは、現実の未発展の金融資本の将来への動向を予測する手がかりを与えることとなる。